

■ 地域密着型商店街について

三重県桑名市

桑名寺町通り商店街は、活性化のために様々なアイデアを駆使し「三八市」や「十楽市」などのイベントを実施していた。また公的な補助金などを活用し、商店街の整備や買い取り商品の無料宅配サービスを実施するなど、住民と行政が一体となって商店街を盛り上げていた。我が町の活性化を図る上で学ぶべき事が多かった。



寺町通り商店街

■ まちづくり基本条例について

愛知県丹羽郡大口町



研修風景

大口町では10年間に渡る試行錯誤を経て「まちづくり基本条例」を制定。この条例に基づき、「地域懇談会」「まちづくり提案会議」「政策検討会議・意見公募手続き」などを実施し、地域・議会・行政が一体となった町づくりを推進していた。「住民投票制度」を明文化している事も着目すべき点であった。今後のまちづくりに大いに参考となった。

■ 街中がせせらぎ事業について

静岡県三島市

三島市では「街中がせせらぎ事業」として水辺空間、自然、文化や歴史などの資源を活用して、市民と協働で水辺の植栽、親水の道、からくり仕掛けなどをデザインし、樹脂舗装を施した素晴らしい景観を持つ回遊ルートを整備。全国から多くの観光客が訪れていた。

我が町が取り組もうとしている「(仮称)水・緑と観光を繋ぐ回廊計画」にとって大きな収穫であった。



整備された水辺空間

■ 学力推進計画「教育のまちづくり」について

大分県豊後高田市



熱心に語る、豊後高田市教育長

豊後高田市は、「昭和の町は教育の町」のスローガンのもと「学びの21世紀塾」を基軸にすえた学力向上の取り組みを展開。テレビ寺子屋講座をはじめ幼稚園児から中学生までが受講できる様々な講座を実施し、学力は大分県内でトップに。市長が現役校長を教育長に抜擢し、自らも塾頭となり「教育の町」を実現していた。

■ 環境を考慮した学校施設（エコスクール）の整備推進について

福岡県田川郡糸田町

糸田小学校は校舎建て替えに伴い、アースチューブによる温度差を冷暖房に利用（地熱利用）・エコシャフトの日射熱を暖房に利用（太陽熱利用）・雨水のトイレ洗浄水利用（雨水利用）すると共に、太陽光パネルを設置し、エコスクール（環境を考慮した学校施設）を実現。快適で省資源の校舎は環境教育にも利用されていた。



昇降口に設置された環境教育のための電子掲示板

■ 百道浜小学校の校庭芝生化について

福岡県福岡市



雑草処理の様子

校庭芝生化の中心的存在は「おやじの会（保護者の有志）」であった。計画当時から先進地視察、芝生の購入と試験張り（自費）を行うとともに、芝生の専門家・学校・PTAを加えた「百道浜小学校グリーンプロジェクトの会」を結成し維持管理にあたっている。その情熱は並々ならぬものがあり、活動を通し地域コミュニティが広がったと語っていた。